



アグロガード

アグロカネショウ株式会社

バージョン番号: 2.7

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Chemwatch 危険有害性警告コード: 3

発行日: 21/12/2022

印刷日: 21/12/2022

S.GHS.JPN.JA

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	アグロガード
同義語	データ無し
他の製品特定手段	データ無し

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	農業(展着剤)
--------------	---------

供給者の詳細

供給者の会社名称	アグロカネショウ株式会社	AGRO-KANESHO CO., LTD.
住所	東京都港区赤坂4-2-19赤坂シャスタースタート7F 107-0052 Japan	7F Akasaka Shasta-east, 2-19, Akasaka 4-chome, Minato-ku Tokyo 107-0052 Japan
電話番号	03-5570-4711	+81-3-5570-4711
FAX番号	03-5570-4708	+81-3-5570-4708
ホームページ	http://www.agrokanesho.co.jp/	http://www.agrokanesho.co.jp/
e-メール	toiawase@agrokanesho.co.jp	toiawase@agrokanesho.co.jp

緊急連絡電話番号

会社名	アグロカネショウ株式会社所沢事業所	AGRO-KANESHO CO., LTD. Tokorozawa office
緊急連絡電話番号	04-2003-7010	+81-4-2003-7010
その他の緊急連絡電話番号	090-1128-3295	+81-90-1128-3295

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類 [1]	特定標的臓器毒性(単回ばく露)区分2, 特定標的臓器毒性(反復ばく露)区分2, 水生環境有害性 短期(急性)区分3, 生殖毒性 区分1B
凡例:	1. Chemwatchによる分類; 2. 日本 NITE GHS 分類データベースによる分類

GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	危険

危険有害性情報

H371	臓器の障害のおそれ(腎臓, 神経系, 呼吸器系)
H373	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(神経系, 呼吸器系)
H402	水生生物に有害
H360	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

注意書き: 安全対策

P201	使用前に取扱説明書を入力すること。
P260	ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P280	保護手袋, 保護衣を着用すること。
P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P273	環境への放出を避けること。

P264 取扱後は製品が付着した体の部位をよく洗うこと。

注意書き: 応急措置

P308+P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

注意書き: 保管(貯蔵)

P405 施錠して保管すること。

注意書き: 廃棄

P501 内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って、認可を受けた有害又は特別廃棄物処理場に廃棄すること。

パラフィンワックス 委員会規則 (EU) 2018/1881 内分泌かく乱物質に関する固有の要件に記載されている

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重量]	名称	官報公示整理番号		ナノフォーム粒子特性
			化審法	安衛法	
8002-74-2	42	パラフィンワックス [e]	8-414	公表	データ無し
9005-00-9	1.4	ステアレスー16	7-97	公表	データ無し
107-21-1	<5	エチレングリコール	2-230	公表	データ無し
凡例:		[e] 内分泌かく乱作用をもつと認められている物質			

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

眼に入った場合	<p>眼に入った場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 直ちにきれいな流水で洗浄すること。 ▶ 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 ▶ 速やかに医師の手当てを受けること。痛みが続いたり繰り返す場合は、医師の手当てを受けること。 ▶ 目に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	<p>皮膚に付着した場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 直ちに汚染された衣類すべて(履物を含む)を脱がせること。 ▶ 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▶ 炎症がある場合には、医師の手当てを受けること。 <p>熱傷の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 火傷の周りを浄化すること。 ▶ 冷湿布および局所抗生物質の使用を検討すること。 <p>第1度熱傷(皮膚の最上層の傷害)の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 痛みが治まるまで、(冷た過ぎない)流水で患部を冷やす、または、水に患部を浸すこと。 ▶ 流水が利用できない場合は、圧定布を使用すること。 ▶ 滅菌された非粘着性包帯や清潔な布で患部を覆うこと。 ▶ ペーストや軟膏を塗らないこと。感染症を引き起こすことがある。 ▶ 痛みが増したり、腫れ、発赤、発熱が見られたりする場合、市販の鎮痛剤を与えること。 <p>第2度熱傷(皮膚の上部2層の傷害)の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 冷たい流水に10~15分間浸し、火傷を冷却すること。 ▶ 流水が利用できない場合は、圧定布を使用すること。 ▶ 氷で冷やさないこと。体温の低下やさらなる傷害を引き起こすことがある。 ▶ 水泡を破いたり、ペーストや軟膏を塗ったりしないこと。感染症を引き起こすことがある。 ▶ 滅菌された傷にくっつかない包帯で優しく患部を保護し、ガーゼやテープで固定すること。 <p>ショック状態を防止するために(頭、首、足に障害がある場合を除く。不快感を伴うことがあるため):</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 平らな場所に横たわらせること。 ▶ 足を12インチ程度高くすること。 ▶ 可能な場合、患部を心臓より高くすること。 ▶ コートや毛布で人を覆うこと。 ▶ 医療援助を求めること。 <p>第3度熱傷の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 直ちに医療援助や緊急支援を求めること。 <p>それまでの間に行なうこと:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 滅菌された傷にくっつかない包帯で優しく患部を保護する、火傷が広範囲の場合、糸くずが患部に残らないシートまたは他の素材で保護すること。 ▶ 乾燥した滅菌包帯で火傷したつま先や指を離しておくこと。 ▶ 患部を水に浸したり、ペーストや軟膏を塗布したりしないこと。感染症を引き起こすことがある。 ▶ ショック状態の防止に関しては、上記を参照すること。 ▶ 気道熱傷の場合、患者が横たわっているときに枕を頭の下に置かないこと。気道を塞ぐことがある。 ▶ 顔面熱傷の場合は、上半身を起こしていること。 <p>救急隊が到着するまで、ショック状態を監視するため、脈拍や呼吸を確認すること。</p> <p>熱傷の場合には:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 直ちに患部を冷水に浸すか、または水で濡らした清潔な布で覆うかして冷やすこと。 ▶ 熱傷部分の衣類を切ったり動かしたりしないこと。症状が悪化することがあるので、患部に付着した衣類を剥がさないこと。 ▶ 水泡を壊したり、固体化した物質を払ったりしないこと。 ▶ 感染予防および痛みを緩和するために、直ちに患部を包帯または清潔な布で覆うこと。 ▶ 患部が広範囲の場合は、シーツ、タオルまたは枕カバーの使用が望ましい。目、鼻、口用に穴を作ること。

アグロガード

	<ul style="list-style-type: none"> ▶ いかなる状況においても、患部に軟膏、オイル、バターなどを適用しないこと。 ▶ 患者に意識がある場合、少量の水を与えてもよい。 ▶ いかなる状況においても、アルコールを与えてはならない。 ▶ 安心させること。 ▶ 患者を寝かせ、体を温めて、ショックの手当をすること。 ▶ 医師に連絡し、火傷の原因と患部の範囲、患者の到着時間を伝えること。
吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ヒューム、エアゾールまたは燃焼生成物を吸入した場合、汚染区域から退去すること。 ▶ 通常、他の措置を講じる必要はないと考えられている。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。 ▶ 嘔吐した場合、気道の確保および誤嚥防止のため、患者を前傾あるいは左側臥位にし、可能であれば頭を下にした状態を保つこと。 ▶ 患者の経過観察を行うこと。 ▶ 眠気や意識不明状態などの意識低下がみられる場合、水を与えてはならない。 ▶ 口内を洗い流すために水を与え、その後患者が無理なく飲める量の液体をゆっくりと与えること。 ▶ 医師の診断を受けること。

医師に対する特別な注意事項

- ▶ 長年にわたる継続的および重度の皮膚ばく露は、異型性の皮膚疾患を引き起こすことがある。この製品にばく露されることで、既に存在する皮膚病を悪化させることがある。
- ▶ 一般的に、粘性が高く揮発性が低い物質（油類および油脂類）の場合、嘔吐を誘導する必要はない。
- ▶ 誤って皮膚に高圧注射をした場合、切開、洗浄および/または創傷清浄の必要があるか検査すること。

注記:

一見重症に見えない怪我でも、数時間以内に広範囲の皮下組織壊死を伴う組織の腫脹、変色、激痛を引き起こすことがある。製品が組織面に沿って身体の広範囲に移動することがある。

セクション5 火災時の措置

消火剤

- ▶ 流水または泡が、燃焼する溶融物質の方向へ流出するのを防ぐこと;これにより火災が飛散および拡散することがある。

- ▶ 泡沫
- ▶ 乾燥化学粉末
- ▶ BCF (規制されていない場合)
- ▶ 二酸化炭素
- ▶ ウォータースプレーまたは霧 - 大規模火災時のみ

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---

消火活動に関する情報

特有の消火方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 ▶ 呼吸装置を備えた全身保護衣を着用すること。 ▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 ▶ 水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努めること。 ▶ 液体が溜まっている場所には水噴霧しないこと。 ▶ 高温であると疑われる容器に接近してはならない。 ▶ 火災にばく露された容器は、安全が確保される場所から水噴霧すること。 ▶ 火の通り道とならない場所に容器を移動すること(安全性が確保できる場合のみ)。
火災及び爆発の危険性	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 可燃性である。 ▶ 熱または炎へのばく露による火災の危険性は低い。 ▶ 加熱により、容器の激しい破裂を伴う膨張や分解が生じることがある。 ▶ 燃焼時に分解し、一酸化炭素(CO)の毒性ガスを発生することがある。 ▶ 刺激性の煙を放出することがある。 ▶ 可燃性物質を含むミストは爆発性を有することがある。 <p>燃焼生成物: 二酸化炭素 (CO₂) 有機物の燃焼特有の、その他の熱分解生成物 有毒ガスを放出することがある。 腐食性ガスを放出することがある。 倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。</p>

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 全ての発火源を除去すること。 ▶ 直ちに全ての漏出物を除去すること。 ▶ 蒸気の吸入、皮膚および目との接触を避けること。 ▶ 保護具を着用し、人体への接触を抑制すること。 ▶ 砂、土、不活性物質またはバーミキュライトを用いて漏出物を吸収し、流出を防ぐこと。 ▶ 拭き取ること。
----------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 廃棄用の表示がなされた適切な容器へ回収すること。
大規模漏出の場合	<p>中程度の危険有害性</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 現場から人員を退去させ、風上へ移動させること。 ▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 ▶ 呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること。 ▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 ▶ 禁煙。裸火または発火源の使用禁止。 ▶ 換気量を増やすこと。 ▶ 安全に対処できる場合、漏えいを阻止すること。 ▶ 砂、土、またはパーミキュライトを用いて流出を防ぐこと。 ▶ リサイクル用の表示がなされた容器へ再利用可能な製品を回収すること。 ▶ 砂、土、またはパーミキュライトを用いて残留物を吸収すること。 ▶ 固体残留物を回収し、廃棄用の表示がなされたドラム缶に入れ密封すること。 ▶ 現場を洗浄し、排水路への流入を防ぐこと。 ▶ 排水路または水路の汚染が生じた場合、救急隊に報告すること。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ポンプ中に静電気が発生することがあり、火災を引き起こすことがある。 ▶ 電氣的導通を確保するために、全ての機器をボンディングおよび接地(アース)すること。 ▶ 静電気の発生を防ぐため、ポンプの線速度を制限すること(注入パイプ直径の2倍の深さになるまでは、1m/秒以下、その後は7m/秒以下を維持)。 ▶ 飛沫をあげないよう、静かに注ぐこと。 ▶ 取り扱いの際または排出の際に圧縮空気を使用しないこと。 ▶ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。 ▶ ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。 ▶ 換気の良い場所で使用すること。 ▶ 窪地および排水だめでの濃縮を避けること。 ▶ 閉所に入る際は、必ず事前に大気検査を行うこと。 ▶ 喫煙、裸火、熱源または発火源となるものを避けること。 ▶ 混触危険物質との接触を避けること。 ▶ この製品を使用するときには、飲食又は喫煙をしないこと。 ▶ 使用時以外は、容器を完全に密封して保管すること。 ▶ 容器の物理的破損を避けること。 ▶ 取り扱い後は、石鹸と水を用いて必ず手を洗うこと。 ▶ 使用した作業着は、他のものと分けて洗濯すること。 ▶ 職業労働規範に従うこと。 ▶ 保存および取り扱いに関する製造者の指示に従うこと。 ▶ 作業環境の安全性を維持するため、空気中の濃度をばく露限度以下に保ち、作業環境を定期的にモニタリングすること。 ▶ 製品で濡れた衣服を皮膚に接触したままの状態にしないこと。
他の情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 元の容器のまま保管すること。 ▶ 容器を完全に密封して保管すること。 ▶ 禁煙。裸火または発火源となるものの使用禁止。 ▶ 換気の良い冷乾所に保管すること。 ▶ 混触危険物質および食品容器から隔離して保管すること。 ▶ 容器の損傷を避け、漏れを定期的に確認すること。 ▶ 保存および取り扱いに関する製造者の指示に従うこと。

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 金属缶またはドラム缶 ▶ 製造者が推奨する容器を使用すること。 ▶ すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。
避けるべき保管条件	<p>注意: 加熱した物質に水が接触すると、発泡または蒸気爆発を起こし、加熱物質の飛散により重度の熱傷を生じることがある。容器から溢れ出し、火災を引き起こすことがある。 酸化剤との反応を避けること。</p>

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会: 許容濃度	パラフィンワックス	粉塵	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
日本産業衛生学会: 許容濃度(粉塵の許容濃度)	パラフィンワックス	線香材料粉塵	4 mg/m ³	データ無し	データ無し	総粉塵 **
日本産業衛生学会: 許容濃度(粉塵の許容濃度)	パラフィンワックス	結晶質シリカ含有率3%未満の鉬毒性粉塵	4 mg/m ³	データ無し	データ無し	総粉塵 **
日本産業衛生学会: 許容濃度(粉塵の許容濃度)	パラフィンワックス	結晶質シリカ含有率3%未満の鉬毒性粉塵	1 mg/m ³	データ無し	データ無し	吸入性粉塵 *
日本産業衛生学会: 許容濃度(粉塵の許容濃度)	パラフィンワックス	その他の無機および有機粉塵	8 mg/m ³	データ無し	データ無し	総粉塵 **

アグロガード

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会:許容濃度	ステアレス-16	粉塵	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
日本産業衛生学会:許容濃度(粉塵の許容濃度)	ステアレス-16	線香材料粉塵	4 mg/m3	データ無し	データ無し	総粉塵 **
日本産業衛生学会:許容濃度(粉塵の許容濃度)	ステアレス-16	結晶質シリカ含有率3%未満の鉱物性粉塵	4 mg/m3	データ無し	データ無し	総粉塵 **
日本産業衛生学会:許容濃度(粉塵の許容濃度)	ステアレス-16	結晶質シリカ含有率3%未満の鉱物性粉塵	1 mg/m3	データ無し	データ無し	吸入性粉塵 *
日本産業衛生学会:許容濃度(粉塵の許容濃度)	ステアレス-16	その他の無機および有機粉塵	8 mg/m3	データ無し	データ無し	総粉塵 **

緊急ばく露限度

成分	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
ステアレス-16	5.7 mg/m3	63 mg/m3	380 mg/m3
エチレングリコール	30 ppm	150 ppm	900 ppm

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
パラフィンワックス	データ無し	データ無し
ステアレス-16	データ無し	データ無し
エチレングリコール	データ無し	データ無し

職業暴露バンディング

成分	職業暴露バンド評価	職業暴露帯域制限
エチレングリコール	E	≤ 0.1 ppm

注記: 職業暴露バンディングは、化学物質の効力および曝露に関連する有害な健康上の結果に基づいて、特定のカテゴリまたはバンドに化学物質を割り当てるプロセスです。このプロセスの出力は、労働者の健康を守ることが期待される露光濃度の範囲に対応する職業暴露バンド(OEB)、です。

ばく露管理

適切な工学的管理方法	<p>工学的管理(設備対策)は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理(設備対策)により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。</p> <p>工学的管理(設備対策)の基本:</p> <p>工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。 放出源の密閉および/または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。</p> <p>雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。</p> <p>通常の作業条件下では、全体排気で十分である。過剰ばく露のリスクがある場合には、JIS認可の呼吸器用保護具を着用すること。安全性を確保するために、保護具は正しく装着することが重要である。倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。汚染物質を効果的に除去するために必要となる新鮮な循環空気「制御風速」は、作業場で発生する汚染物質を含む空気「脱出」速度により異なる。</p>																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>汚染物質の種類:</th> <th>気流速度:</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(静止空気中において)タンクから蒸発した溶剤、蒸気、脱脂剤など</td> <td>0.25-0.5 m/秒 (50-100 f/分)</td> </tr> <tr> <td>注入作業、断続的な容器充填、低速コンベア輸送、溶接、飛散、めっき(酸性ガス)、酸洗いから生じるエアゾール、ガス(発生源からの緩やかな放出)</td> <td>0.5-1 m/秒 (100-200 f/分)</td> </tr> <tr> <td>直接噴霧、小型ブースでのスプレー塗装、ドラム缶充填、コンベヤー荷積み、粉碎粉じん、ガス放出(気流が速い場所への放出)</td> <td>1-2.5 m/秒 (200-500 f/分)</td> </tr> <tr> <td>研削、吹き付け加工、タンプリング、高回転機器から発生する粉じん(気流が非常に激しい場所への高初速度での放出)</td> <td>2.5-10 m/秒 (500-2000 f/分)</td> </tr> </tbody> </table> <p>各範囲における最適値の決定要素:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>下限値</th> <th>上限値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい</td> <td>1: 室内空気流が乱れている</td> </tr> <tr> <td>2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的效果のみを有する</td> <td>2: 汚染物質の毒性が高い</td> </tr> <tr> <td>3: 発生が断続的で少量</td> <td>3: 発生量が多く、使用頻度が高い</td> </tr> <tr> <td>4: 大型排気フードまたは空気流量が多い</td> <td>4: 小型排気フードまたは局所制御のみ</td> </tr> </tbody> </table> <p>理論的には、単一の吸入パイプの開口部から遠くなるにつれ、気流速度は急速に落ちる。一般的に、速度は吸入口からの距離の二乗に比例して減少する(単純なプロセスの場合)。したがって、吸入口における気流速度は、汚染源からの距離を考慮して調節すべきである。例えば、吸入口から2m離れたタンクで発生した溶剤を吸引するには、吸入ファンの気流速度は、最低1~2m/秒(200~400ft/分)であるべきである。吸入装置の機能に欠陥を生じような機械的要素を考慮すると、吸入システムを導入もしくは使用する際には、理論上の気流速度に10以上の係数をかけることが不可欠である。</p> <p>溶融物質の場合: 機械的人工換気法を使用する。一般的に、この換気法は組み立て加工現場および物質を過熱する製造加工場に備え付けなくてはならない。局所排気は、溶融物質の取り扱いに関する機械類の上部およびその近辺で使用すること。</p>	汚染物質の種類:	気流速度:	(静止空気中において)タンクから蒸発した溶剤、蒸気、脱脂剤など	0.25-0.5 m/秒 (50-100 f/分)	注入作業、断続的な容器充填、低速コンベア輸送、溶接、飛散、めっき(酸性ガス)、酸洗いから生じるエアゾール、ガス(発生源からの緩やかな放出)	0.5-1 m/秒 (100-200 f/分)	直接噴霧、小型ブースでのスプレー塗装、ドラム缶充填、コンベヤー荷積み、粉碎粉じん、ガス放出(気流が速い場所への放出)	1-2.5 m/秒 (200-500 f/分)	研削、吹き付け加工、タンプリング、高回転機器から発生する粉じん(気流が非常に激しい場所への高初速度での放出)	2.5-10 m/秒 (500-2000 f/分)	下限値	上限値	1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい	1: 室内空気流が乱れている	2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的效果のみを有する	2: 汚染物質の毒性が高い	3: 発生が断続的で少量	3: 発生量が多く、使用頻度が高い	4: 大型排気フードまたは空気流量が多い
汚染物質の種類:	気流速度:																			
(静止空気中において)タンクから蒸発した溶剤、蒸気、脱脂剤など	0.25-0.5 m/秒 (50-100 f/分)																			
注入作業、断続的な容器充填、低速コンベア輸送、溶接、飛散、めっき(酸性ガス)、酸洗いから生じるエアゾール、ガス(発生源からの緩やかな放出)	0.5-1 m/秒 (100-200 f/分)																			
直接噴霧、小型ブースでのスプレー塗装、ドラム缶充填、コンベヤー荷積み、粉碎粉じん、ガス放出(気流が速い場所への放出)	1-2.5 m/秒 (200-500 f/分)																			
研削、吹き付け加工、タンプリング、高回転機器から発生する粉じん(気流が非常に激しい場所への高初速度での放出)	2.5-10 m/秒 (500-2000 f/分)																			
下限値	上限値																			
1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい	1: 室内空気流が乱れている																			
2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的效果のみを有する	2: 汚染物質の毒性が高い																			
3: 発生が断続的で少量	3: 発生量が多く、使用頻度が高い																			
4: 大型排気フードまたは空気流量が多い	4: 小型排気フードまたは局所制御のみ																			

個人保護措置



眼/顔面の保護	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サイドシールド付きの保護メガネ。 ▶ ケミカルゴーグル。 ▶ コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。レンズの装着および使用制限を明記した方針文書を作成の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59], [AS/NZS 1336 またはその他の国家規格]
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。
手/足の保護	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋を着用すること。 ▶ ゴム製などの安全靴または安全長靴を着用すること。 <p>適切な手袋の選択は、材質だけでなく、製造業者間で異なる品質保証にも注意する必要がある。化学品が複数の化学物質の調剤である場合、手袋材質の耐久性は事前に計算することができず、したがって、使用前に確認しておくことが重要である。</p> <p>物質に対する正確な破過時間は、保護手袋製造業者から得ることができ、最終的な選択の際に重視するものである。</p> <p>個人衛生は効果的な手の保護の重要な要素である。手袋は清潔な手に着用する必要がある。手袋使用後は、手を洗浄し、完全に乾燥させる必要がある。無香料の保湿剤を使用することが望ましい。</p> <p>手袋種類の適合性と耐久性は使用用途による。手袋の選定における重要な要因は次のとおりである:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接触頻度および時間、 ・ 手袋材料の耐化学品性、 ・ 手袋の厚さ、 ・ 作業性 <p>関連する規格に適合した手袋を使用すること(欧州EN374、US F739、AS/NZS 2161.1または国内同等規格等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期使用または高頻度の繰り返し接触が発生することがある場合、保護クラス5以上の手袋の使用が望ましい(EN374、AS/NZS 2161.1または国内同等規格による計測で、破過時間240分を超えるもの)。 ・ 短時間の接触のみ予定されている場合、保護クラス3以上の手袋の使用が望ましい(EN374、AS/NZS 2161.1または国内同等規格による計測で、破過時間60分を超えるもの)。 <p>手袋に使用されるポリマー種類には、動作による影響が少ないものがあり、長期使用の際にはこのことを考慮するべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汚染された手袋は交換すること。 <p>あらゆる用途で、ASTM F-739-96に定義されているように、手袋は次のように評価されている:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優良 破過時間 > 480分 ・ 良 破過時間 > 20分 ・ 可 破過時間 < 20分 ・ 推奨しない 手袋材料の劣化時 <p>一般的用途では、通常0.35mmより厚い手袋が推奨される。</p> <p>手袋の透過性は材質の構造に依存し、厚さは必ずしも特定の化学品に対する耐性を表すものではないことに注意が必要である。そのため、手袋は、作業要件を考慮し、破過時間の知識に基づき選択されるべきである。</p> <p>手袋の厚さはまた、製造業者、手袋種類またはモデルにより異なることがある。したがって、作業に最も適した手袋を選択するためには、製造業者の技術データを常に考慮すべきである。</p> <p>注意: 実行中の作業により、様々な厚さの手袋が、特定の作業を行うために必要となる場合がある。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薄手の手袋(0.1mm以下まで)は、手先の器用さが要求される作業時に推奨される。しかし、このタイプの手袋は、短い保護時間のみ考慮されており、通常は使い捨てが想定される。 ・ 厚手の手袋(3mm以上)は、摩擦または穿孔の可能性があり、機械的(および化学的)リスクがある作業時に推奨される。 <p>手袋は清潔な手に着用する必要がある。手袋使用後は、手を洗浄し、完全に乾燥させる必要がある。無香料の保湿剤を使用することが望ましい。</p>
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。
他の保護	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 防護用密閉服(つなぎ型) ▶ 塩化ビニル製エプロン ▶ 保護クリーム ▶ 皮膚洗浄クリーム ▶ 洗眼用設備

推奨される材料

グローブセレクションインデックス

手袋の選択は、「Forsberg 衣類性能指数(Clothing Performance Index)」の改訂版に基づく。コンピュータによる選択に際して作用が考慮されている物質:

アグロガード

物質	CPI
PE/EVAL/PE	A
TEFLON	A
NEOPRENE	B
BUTYL	C
BUTYL/NEOPRENE	C
NAT+NEOPR+NITRILE	C
NATURAL RUBBER	C
NATURAL+NEOPRENE	C
NEOPRENE/NATURAL	C
NITRILE	C
NITRILE+PVC	C
PVA	C
PVC	C
PVDC/PE/PVDC	C
SARANEX-23	C

呼吸用保護具

AX-P タイプフィルタ(十分な容量を有するもの)

呼吸ゾーンでのガス/粒子の濃度が「暴露基準」(またはES)に達するか、それを上回る場合、呼吸器保護が必要となる。必要とされる保護の度合いは面体およびフィルターの等級によって異なり、保護の種類はフィルターのタイプにより異なる。

防護係数	ハーフフェイス呼吸器	フルフェイス呼吸器	電動ファン付き呼吸器
10 x ES	AX-AUS P2	-	AX-PAPR-AUS P2
50 x ES	-	AX-AUS P2	-
100 x ES	-	AX-2 P2	AX-PAPR-2 P2 ^

^ =フルフェイス

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸器用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

SARANEX-23 2-PLY	C
VITON/NEOPRENE	C

* CPI - Chemwatch Performance Index (性能指数)

A: 最良

B: 満足 (4時間連続して浸漬すると、劣化することがある)

C: 不良または危険 (短期的な浸漬の場合を除く)

注意: 様々な要因が手袋の性能に影響を与えるため、詳細にわたる観察に基づき最終的決定を下す必要がある。

* 手袋を短期間またはごくまれに使用する場合、「感触」や使い勝手 (例: 廃棄性) 等の要素が手袋の選択に影響を与え、長期のあるいは頻繁な利用に適さない手袋が選択されることがある。資格のある専門家に相談すること。

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	乳白色		
物理状態	液体	相対密度 (水 = 1)	0.95
臭い	データ無し	n-オクタノール/水分配係数	データ無し
嗅覚閾値	データ無し	自然発火点 (°C)	データ無し
pH	データ無し	分解温度 (°C)	データ無し
融点/凝固点 (°C)	データ無し	動粘性率 (cSt)	データ無し
沸点/初留点/沸点範囲 (°C)	データ無し	モル質量 (g/mol)	データ無し
引火点 (°C)	データ無し	味	データ無し
蒸発速度	データ無し	爆発性	データ無し
可燃性	データ無し	酸化特性	データ無し
爆発上限界 (%)	データ無し	表面張力 (dyn/cm or mN/m)	データ無し
爆発下限界 (%)	データ無し	揮発性成分 (%vol)	データ無し
蒸気圧 (kPa)	データ無し	ガスグループ	データ無し
溶解度	データ無し	pH (溶液) (1%)	8.7
相対ガス密度 (空気 = 1)	データ無し	VOC (g/L)	データ無し
ナノフォーム溶解度	データ無し	ナノフォーム粒子特性	データ無し
粒子サイズ	データ無し		

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 混触危険性物質が存在する。 ▶ 製品は安定していると考えられる。 ▶ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影響に関する情報

吸入した場合	<p>本物質は、吸入により、(動物モデルを用いたEC指令の分類に基づく) 有害な健康影響を及ぼす物質または気道刺激性物質とは考えられていない。それでもなお、動物への少なくとも1つの他経路からのばく露により、全身性健康悪影響が確認されており、作業環境においては、適正衛生規範 (GHP) に従いばく露を最小限に抑え、適切な管理策を講じるべきである。</p> <p>高温では吸入による危険性が高まる。</p> <p>通常の取り扱い下で発生した蒸気またはエアゾール(ミスト、ガス)の吸入により、人への健康障害が生じることがある。</p>
--------	---

飲み込んだ場合	本物質を誤って経口摂取した場合、身体に害を及ぼすことがある。
皮膚に付着した場合	脂肪または油と混和し、非アレルギー性接触皮膚炎と呼ばれる皮膚反応を引き起こし、皮膚が脱脂されることがある。EC指令に記述されるような刺激性接触皮膚炎が起こることはあまりない。 皮膚疾患がある場合、症状を悪化させることがある。 開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。 切創、擦り傷または病変部などを通じて血流に侵入すると、悪影響を及ぼす全身性疾患を引き起こすことがある。使用前に皮膚を検査し、あらゆる外傷を適切に保護しておくこと。 皮膚への接触直後または一定時間経過後に、軽度ではあるが明らかな皮膚炎を引き起こすことがデータにより示唆されている。反復ばく露により、発赤、腫れおよび水疱形成を特徴とする接触性皮膚炎を生じることがある。
眼に入った場合	この液体は、(EC指令の分類に基づく) 刺激性物質としては考えられていないが、眼に入った場合、流涙または結膜発赤(風焼けの症状と同様)を特徴とする一過性の不快感を生じることがある。
慢性毒性	反復または長期の職業ばく露により、臓器または生化学的システムの累積的健康影響を引き起こすことがある。 ヒトへの暴露が直接的に発達障害を引き起こすという十分な立証データが存在する。 油は、皮膚に接触または吸入されることがある。長期間のばく露は、湿疹、毛包炎、顔面色素沈着、足裏イボを引き起こすことがある。全身への影響があるが、長期間のばく露は、肺の瘢痕化を増加することがある。

	毒性	刺激性
アグロガード	経口(ラット) LD50: >5000 mg/kg ^[2] 経皮(ラット)LD50: >2000 mg/kg ^[2]	データ無し
パラフィンワックス	経口(ラット) LD50: >5000 mg/kg ^[1] 経皮(ラット)LD50: >2000 mg/kg ^[1]	Eye (rabbit): 100 mg/24 hr-mild Skin (rabbit): 500 mg/24 hr-mild 皮膚: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1] 眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
ステアレスー16	吸入(ラット) LC50: >1.6 mg/14h ^[1] 経口(ラット) LD50: 1900 mg/kg ^[2] 経皮(ウサギ)LD50: >3000 mg/kg ^[1]	皮膚: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1] 眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
エチレングリコール	経口(ラット) LD50: >2000 mg/kg ^[2] 経皮(マウス)LD50: >3500 mg/kg ^[1]	Eye (rabbit): 100 mg/1h - mild Eye (rabbit): 12 mg/m3/3D Eye (rabbit): 1440mg/6h-moderate Eye (rabbit): 500 mg/24h - mild Skin (rabbit): 555 mg(open)-mild 皮膚: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1] 眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
凡例:	1. 欧州ECHA登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。2. *の値は製造者のSDSから得られた値。特に注記のないデータはRTECSから抽出した値。	

パラフィンワックス	<p>[潤滑系の油]の区分に含まれる化学物質は、製造過程および物理化学的観点の両方で結びつけられている。特定の蒸留油における潜在毒性は、加工・処理の程度または範囲に反比例する。なぜなら、</p> <ul style="list-style-type: none"> これらの化学物質による悪影響は、望ましくない成分と関連する。 望ましくない成分の量は、処理の程度と反比例する。 処理の程度または範囲が同じである蒸留油は、類似の毒性を有する。 [残油系の油]における潜在毒性は、処理の程度とは無関係である。 蒸留油の生殖および発育毒性は、処理の程度と反比例する。 <p>未精製および軽度精製蒸留油は、望ましくない成分を最大量含んでおり、炭化水素分子の種類が最も多く、極めて高い発がん性および遺伝子変異作用を示した。高度精製蒸留油および厳密に精製された蒸留油は、未精製および軽度精製蒸留油から望ましくない成分を除去または変換させて製造している。高度精製蒸留油および厳密に精製された蒸留油は、未精製および軽度精製蒸留油に比べ、炭化水素分子の種類が少なく、人畜毒性も極めて低い値を示した。残油による遺伝子変異と発がん性作用の検査結果は陰性を示し、その分子の大きさから生物活性物質または生物学的利用能は欠如しているという考えを立証した。</p> <p>潤滑系の油は、毒性試験で一貫して低い急性毒性を示している。数多くの試験により、潤滑系の油の変異原性および発がん性は、3~7環式芳香族化合物(PAC)含有量とDMSO抽出物濃度(例、IP346試験)と相関性を持ち、これら二つの特性は、処理の程度・状態と直接関係している。</p>
ステアレスー16	<p>AEs(アルコールエトキシレート)が遺伝子損傷、突然変異またはがんを引き起こす証拠はないということが、臨床試験および動物試験により確認されている。生殖または発生に関する悪影響も確認されていない。動物試験では、100mg/kg超の濃度での影響は臓器重量の変化に限定され、肝腫大以外に病理学的変化は見られなかった。AEsは接触感作性物質ではない。純粋なAEは、眼および皮膚刺激性を有する。AEsを含有する水溶液の刺激性は、濃度により異なる。スプレー洗剤(エアゾール)および洗濯用粉石けんの粉塵から大気中に放出されるAEは極僅かであり、呼吸器系に刺激を生じる可能性は低い。要約すると、家庭用洗濯/清掃洗剤に含まれるAEは安全であり、一般消費者用の製品に関する懸念は生じないことが、ヒト健康リスク評価の結果明らかとなっている。</p>
アグロガード & パラフィンワックス	「炭化水素ワックス」とは、胃腸管に吸収されず、少量であれば消化されずに通過する、C20からC36までの固体パラフィン系炭化水素群のことを指す。

急性毒性	×	発がん性	×
皮膚腐食性/刺激性	×	生殖毒性	✓
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	×	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	✓
呼吸器感受性又は皮膚感受性	×	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	✓
生殖細胞変異原性	×	誤えん有害性	×

凡例: × - データ利用不可または、区分に該当しない
✓ - 分類済み

内分泌かく乱特性

多くの化学物質は、内分泌系として知られる、人体のホルモンを模倣したり阻害したりすることがある。内分泌かく乱物質は、内分泌(またはホルモン)系を阻害する可能性のある化学物質である。内分泌かく乱化学物質は、体内で自然分泌されるホルモンの合成、分泌、輸送、結合、作用、または分解・排泄を阻害する。ホルモンによって制御されている体内のシステムは、内分泌かく乱化学物質によって狂わされることがある。具体的には、内分泌かく乱化学物質は、学習障害の発生、さまざまながんおよび性的発達障害などの身体形態異常に関連している可能性がある。内分泌かく乱化学物質は動物に悪影響を及ぼす。しかし、人体への潜在的な健康影響については、限定的な科学的情報が得られていない。人類は通常、一度に複数の内分泌かく乱化学物質にばく露しており、公衆衛生への影響を評価することが困難であるためである。

セクション12 環境影響情報

生態毒性

アグロガード	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	LC50	96	魚類 Cyprinus carpio (コイ)	>1000mg/L	8
EC50	48	甲殻類 Daphnia magna (オオミジンコ)	70.8mg/L	8	
EC50	72	藻類/植物 Pseudokirchneriella subcapitata (藻類)	>1000mg/L	8	

パラフィンワックス	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し

ステアレス-16	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	EC20(ECx)	72h	藻類または他の水生植物	0.06mg/l	2
	EC50	72h	藻類または他の水生植物	>100mg/l	2
LC50	96h	魚類	>5.6mg/l	2	

エチレングリコール	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	EC50(ECx)	データ無し	藻類または他の水生植物	6500-7500mg/l	1
	EC50	48h	甲殻類	>100mg/l	2
	LC50	96h	魚類	>10000mg/l	1
EC50	96h	藻類または他の水生植物	6500-13000mg/l	1	

凡例: 1. IUCLID毒性データ 2. 欧州ECHA登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性 4. 米国環境保護庁, Ecotoxデータベース - 水生毒性データ 5. ECETOC水生環境有害性評価データ 6. NITE (日本) - 生物濃縮性データ 7. METI (日本) - 生物濃縮性データ 8. ベンダーデータ から抽出

水生生物に対して有害である。

飲料水水質基準:

炭化水素合計: 10 ug/l(英国 最大)。

下水道または水路に排出しないこと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気
ステアレス-16	高	高
エチレングリコール	低(半減期 = 24 日)	低(半減期 = 3.46 日)

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
ステアレス-16	低 (LogKOW = 2.2284)
エチレングリコール	低 (BCF = 200)

土壌中の移動性

成分	移動性
ステアレス-16	低 (KOC = 10000000000)

成分	移動性
エチレングリコール	高 (KOC = 1)

内分泌かく乱特性

人体よりも環境中で、有害影響と内分泌かく乱化学物質とを関連付ける、より説得力のある証拠が見られる。内分泌かく乱化学物質は、生態系の生殖生理学を大きく変化させ、最終的には個体群全体に影響を与える。一部の内分泌かく乱化学物質は、環境中での分解速度が遅い。その特性により、長期間にわたって潜在的な有害性を有する。さまざまな野生生物種における内分泌かく乱化学物質のいくつかの十分に確立した有害影響には、卵殻薄化、異性的特徴および生殖発生障害の発現などがある。示唆されているが証明されていない野生生物種における他の有害影響には、生殖異常、免疫機能障害、骨格変形などがある。

その他の有害影響

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

<p>製品／容器／包装の廃棄方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 容器は空であっても化学的な危険有害性を有していることがある。 ▶ 可能な場合、適切な再利用／リサイクルのため、製造者に返送すること。 <p>返送が不可能な場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 残留物がなくなるまで十分に洗浄できない場合や、同一製品の保管に再利用できない場合には、再利用を防ぐために容器に穴を開け、認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。 ▶ 可能であれば警告ラベルおよびSDSを保管し、製品に関する注意事項を厳守すること。 <p>廃棄物の処理要件を定める法規制は、国や地域により異なる。現地で施行されている法規制を確認すること。地域によっては、特定廃棄物の追跡管理が必要となる。</p> <p>段階的な管理が一般的である(取扱者による調査が必要):</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リデュース - 廃棄物の発生抑制 ▶ リユース - 再利用 ▶ リサイクル - 再生資源の利用 ▶ 廃棄 (最終手段) <p>本製品は、未使用の場合や汚染されていないが意図する用途に適さない場合には、リサイクルしてもよい。汚染されている場合には、ろ過、蒸留またはその他の方法による再生が可能な場合もある。このような判断をする場合、保管寿命も考慮すべきである。取扱い中に物質の性質が変わる可能性があり、その場合には再生利用や再利用が適切とはなり得ない点に注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は排水路に流入させないこと。 ▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は、排出する前にすべて回収し適切な処理を施す必要がある。 ▶ 下水道への排出は国内法規制の対象となることがあるため、常に、その国内法規制の要件を考慮しなければならない。 ▶ 不明な点は、担当当局に問い合わせること。 ▶ 製造者にリサイクルの可否を問い合わせ、可能な場合はリサイクルすること。 ▶ 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。 ▶ 残留物は、認可を受けた処分場で焼却または埋立処分すること。 ▶ 容器は、可能であれば再生利用、もしくは認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。
-----------------------------	---

セクション14 輸送上の注意

要求されるラベル

海洋汚染物質	該当しない
--------	-------

陸上輸送 (UN): 危険物輸送規制対象外

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR): 危険物輸送規制対象外

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee): 危険物輸送規制対象外

MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

MARPOL 附属書 V 及び IMSBC コードによるばら積み輸送

製品名	グループ
パラフィンワックス	データ無し
ステアレス-16	データ無し
エチレングリコール	データ無し

ICG コードによるばら積み輸送

製品名	輸送タイプ
パラフィンワックス	データ無し
ステアレス-16	データ無し
エチレングリコール	データ無し

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

パラフィンワックス に関する適用法令

世界保健機関(WHO) ナノ物質製造のための提案職業ばく露限度(OEL)

日本 労働安全衛生法

日本 化審法: 既存化学物質/新規公示化学物質

日本 政府によるGHS分類

日本 粉塵の許容濃度

日本 許容濃度等

日本安衛法: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

ステアレス-16に関する適用法令

世界保健機関(WHO) ナノ物質製造のための提案職業ばく露限度(OEL)
 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 - 優先評価化学物質
 化管法(令和5年度分以降の排出量等の把握や令和5年度以降のSDS提供の対象)
 日本 労働安全衛生法

日本 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律: 優先評価化学物質
 日本 化審法: 既存化学物質/新規公示化学物質
 日本 粉塵の許容濃度
 日本 許容濃度等

エチレングリコールに関する適用法令

ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト
 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 - 優先評価化学物質
 日本 労働安全衛生法
 日本 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律: 優先評価化学物質

日本 化審法: 既存化学物質/新規公示化学物質
 日本 政府によるGHS分類
 日本安衛法: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 文書の交付		
	政令名称	政令番号	
	固形パラフィン	別表第9の170	
	エチレングリコール	別表第9の75	
	名称等を表示すべき危険物及び有害物		
	政令名称	政令番号	
	固形パラフィン	別表第9の170	
	エチレングリコール	別表第9の75	
	製造の許可を受けるべき有害物		
	政令名称	政令番号	
該当しない	該当しない		
関連する法令・条例			
危険物 - 酸化性の物	該当しない		
危険物 - 引火性の物	該当しない		
有機溶剤	該当しない		
特定化学物質	該当しない		
PRTR - 化管法	分類	政令名称	政令番号
	該当しない	該当しない	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない		
化審法	優先評価化学物質	[α -(アルキル(C=16~18))- ω -ヒドロキシポリ(オキシエタン-1, 2-ジイル)又は α -(アルケニル(C=16~18))- ω -ヒドロキシポリ(オキシエタン-1, 2-ジイル)](数平均分子量が1,000未満のものに限る。), エチレングリコール	
	第1種特定化学物質	該当しない	
	第2種特定化学物質	該当しない	
	監視化学物質	該当しない	
	一般化学物質	パラフィンワックス	

国別インベントリ状況

国別インベントリ	状況
オーストラリア - AIIIC / オーストラリア非工業用	Yes
カナダ - DSL	Yes
カナダ - NDSL	No (パラフィンワックス; ステアレス-16; エチレングリコール)
中国 - IECSC	Yes
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	Yes
日本 - ENCS	Yes
韓国 - KECI	Yes
ニュージーランド - NZIoC	Yes
フィリピン - PICCS	Yes
米国 - TSCA	Yes
台湾 - TCSI	Yes
メキシコ - INSQ	Yes
ベトナム - NCI	Yes
ロシア - FBEPH	Yes
凡例:	Yes = 全ての成分がインベントリに記載されている No = 記載されている成分はインベントリに記載されていない。これらの成分は対象外であるか、登録/届出が必要である

セクション16 その他の情報

改訂日	21/12/2022
最初の発行日	19/05/2022

連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター 中毒110番 大阪(365日, 24時間対応) 一般市民向け 072-727-2499 医療機関専用有料電話 072-726-9923 つくば(365日, 9~21時対応)
一般市民向け 029-852-9999 医療機関専用有料電話 029-851-9999

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
1.7	21/12/2022	慢性有害性, 成分, 毒性・刺激性(その他)

他の情報

製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。
SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

定義および略語

- ▶ PC-TWA: 時間加重平均許容濃度
- ▶ PC-STEL: 短時間ばく露限界許容濃度
- ▶ IARC: 国際がん研究機関
- ▶ ACGIH: 米国産業衛生専門家会議
- ▶ STEL: 短時間ばく露限界値
- ▶ TEEL: 一時的緊急ばく露限度
- ▶ IDLH: 脱出限界濃度
- ▶ ES: ばく露基準
- ▶ OSF: 臭気安全係数
- ▶ NOAEL: 無毒性量
- ▶ LOAEL: 最小毒性量
- ▶ TLV: 許容濃度
- ▶ LOD: 検出限界値
- ▶ OTV: 臭気検知閾値
- ▶ BCF: 生物濃縮係数
- ▶ BEI: 生物学的ばく露指標
- ▶ AIIC: オーストラリア工業化学品インベントリ
- ▶ DSL: 国内物質リスト
- ▶ NDSL: 非国内物質リスト
- ▶ IECSC: 中国現有化学物質名録
- ▶ EINECS: 欧州既存商業化学物質インベントリ
- ▶ ELINCS: 欧州届出化学物質リスト
- ▶ NLP: もはやポリマーとみなされない物質のリスト
- ▶ ENCS: E既存化学物質 / 新規公示化学物質
- ▶ KECI: 韓国既存化学物質目録
- ▶ NZIoC: ニュージーランド化学物質インベントリ
- ▶ PICCS: フィリピン化学品および化学物質インベントリ
- ▶ TSCA: 有害物質規制法
- ▶ TCSC: 台湾既存化学物質インベントリ
- ▶ INSQ: 国家化学物質インベントリー
- ▶ NCI: 国家化学品インベントリ
- ▶ FBEPH: ロシア 潜在的に有害性のある化学物質及び生物学的物質リスト

ChemwatchのAuthorITeで作成しました。